

令和7年度 7月号 令和7年7月1日発行

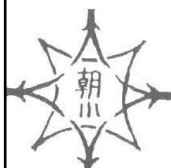
児童数597名

《学校教育目標》

かしこい子

やさしい子

たくましい子



朝霞第四小だより

朝霞市立朝霞第四小学校 〒351-0015 朝霞市幸町1-6-9

TEL (461) 0363 E-Mail 4shou@asaka-s.ed.jp

「折り合い」を学ぶ

校長 原口 憲充

最近目にする、海外のニュースや大人たちの振る舞い。また皆さんの将来を考えて思うことは、「折り合いをつける力を身につける」ことが大切だということです。

折り合いとは、「互いに譲り合い納得できる状況を見出すこと」であり、人間関係においては、「お互いの関係性を調節し合致できる状況を創造すること」です。具体的には、自分の意見だけを通すのではなく、また自分だけが我慢をするのではなく、お互いに妥協し、合意形成を図るということです。

ではどうしたら「折り合い」が上手につけられるようになるのでしょうか。人は意見や考え方がぶつかると、「いったい何を言っているのだろう」と思い怒りをあらわにする人もいます。自分の意見が受け入れられないことへの反発もあるでしょうし、相手も同じことを思ってお互いにイライラすることがよくあります。「なんで分かってくれないのだろう、いったい何を考えているのだろう、頭にくるなあ」と互いに相手を責めていては、何の解決にもなりません。では、少しだけ受け止め方を変えて、相手の立場に立っていろいろな事を想像してみてください。まずは自分の心を落ち着かせ、次に違う角度から物事を客観的に見る事ができれば、お互いの妥協点が見え、折り合いがつくと思います。逆に「右か左か」とか「上か下か」というような究極な二択での選択肢しか考えられない人は、折り合いをつける事がとても難しくなります。「右か左か」「上か下か」ではなく、真ん中に考えを寄せていくことが「折り合いをつける」ことだと私は思います。初めから答えは一つだと決めつけることなく柔軟に対処しましょう。

なぜ私が、このようなことを書き示したのか。それは世界各国で戦争や弾圧などの理不尽な暴力に苦しめられている人々や、地震や風水害で被災し、いまだ苦勞している方々が、この世界には数多くいることを知って欲しいからなのです。そしてこのような悲惨な現状が、今後生まれることがないように思っ綴りました。人々が「折り合い」を正しく行使できれば、今見ている世界も変わるかもしれません。これからの不透明な時代において、皆さんはしなやかに、かつたくましく生き抜いてください。読んでいただき、ありがとうございました。